

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日/2006年1月30日 住所/東京都板橋区大谷口北町52-2(仮園舎) ☎03(3956)1068

49号

安全なはずの通学路で子どもが殺害される事件が相次ぎ、全国に衝撃が走りました。緊急の安全対策は必要ですが、では何故このようなことが起きてしまうのでしょうか。犯罪者が生まれてしまう背景には、今の社会のしくみ、子どもたちが成長していく過程が人工的・管理的になり、発達に必要なプロセスが踏みにくくなっている現状があるように思います。環境のバーチャル(仮想現実)化が急速に進んでいること。インターネットで流れる情報には規制がなく、「なんでもあり」の世界になっていること。「勝ち組」「負け組」に象徴される格差社会、競争社会になっていること。子どもたちの笑顔を守るためには、子どもたちが今の社会で本当に大切にされているかどうかを、大人が問直すこと。そうすることで、犯罪者をつくらぬ社会を実現する道へつながっていくと思います。(T・R)

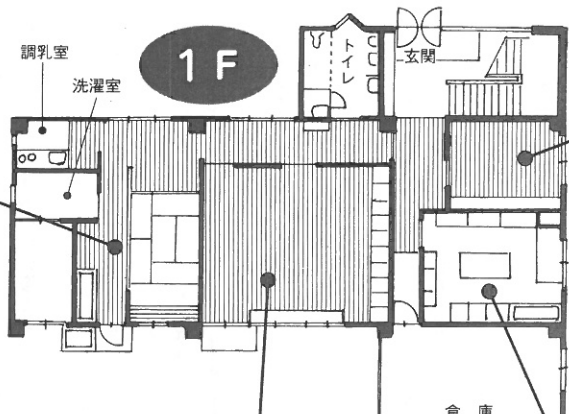
ただいま、仮園舎での保育中!

昨年10月末に大谷口北町の仮園舎(元板橋南下水道局事務所)に引っ越してきました。従来の園舎の3倍もある敷地で、建物も大きく、広い階段、広い廊下、広い玄関。鉄筋造りなので機密性がよく、陽あたりもよいので、少しの暖房ですぐに暖かくなります。子どもたちも広いスペースを喜んで遊んでいます。コンクリートの庭の中央に造った砂場で遊んだり、城北公園や茂呂山公園も近くなったので、毎日のように出かけています。「このままここで保育したらいいのでは?」という声も聞かれますが、一つ一つの部屋が区切られているので、お互いの保育が見えにくくなり、職員同士の会話が減ってきているなど、運営上は不都合なことがあります。やはり保育園として造られている建物ではないので仮住まいです。それでも、今年の6月末まで、ここで子どもたちは育つわけですから、しっかり保育していきたいと思っています。仮園舎での保育の様子をご紹介します。

●どんぐり組 (0歳児クラス)
1階のお部屋です。畳を利用した段差のあるお部屋になっています。食べる・遊ぶ・寝るのスペースを、それぞれ分けて過ごしています。



日当たりがよく気持ちのよい0歳児の部屋。沐浴のスペースもゆつたり。

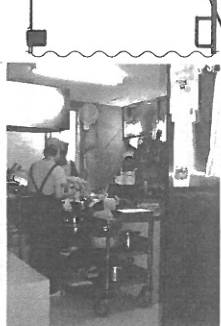


●事務室
玄関のそばにありますが、来訪者が見えないため、ミラーを設置しました。登降園の親子の様子なども垣間見ることができるようになって、嬉しいです。

●めだか組 (1歳児クラス)
1階のお部屋です。「おはよう!」と登園したら、とことこと自分でお部屋に入ることができます。庭にもすぐに出られて喜んでます。毎日のようにリヤカーで城北公園に出かけています。

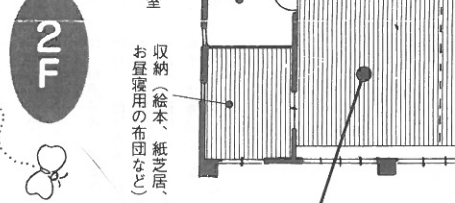


広々とした1歳児の部屋は庭に直結(右)。庭につくった砂場は子どもたちに大人気(上)。



●給食室
中央に作業台が置けるほど広く、離乳食も一緒に作っています。出来上がった食事はワゴンで運び、3歳から5歳は部屋で保育士が盛りつけています。

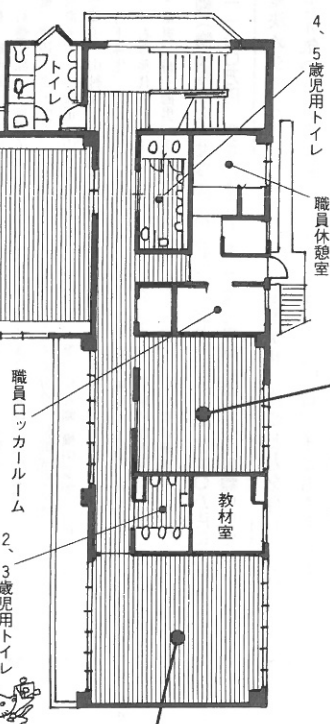
広く使いやすくなった給食室。毎日おいしい昼食とおやつをつくっています。



●うさぎ組 (4歳児クラス)
●かもしか組 (5歳児クラス)
2階のホールで一緒に過ごしています。障子戸を利用して衝立てにし、うまく仕切りをしながら生活しています。広いので、「リズム」では思いっきり走ることができます。城北公園や茂呂山公園に毎日のように散歩に出かけています。



広い4、5歳児の部屋(ホール)では思いっきりリズムが楽しめます。



●あひる組 (2歳児クラス)
2階のお部屋です。広い廊下から部屋につながり、厚い壁を大きな窓のようになりぬいた、ちょっと面白い部屋です。ごっこ遊びの世界が広がります。歩いて城北公園まで行けるようになりました。



廊下との境のくりぬいた窓がポイントの2歳児の部屋。

●とんぼ組 (3歳児クラス)
2階の広い廊下の行き止まりにとんぼの部屋があります。正方形の部屋なので、コーナーを作って遊ぶことができ、友だち同士の交流も深まっています。



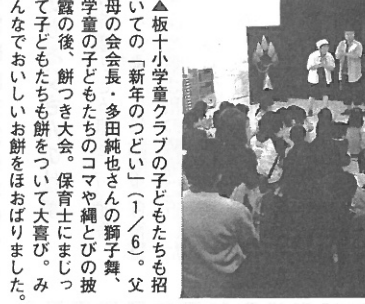
正方形に近い広い3歳児の部屋は、一度にいろんな遊びができます。

新園舎 起工式を行いました

12月6日、陽光保育園の新築現場で起工式を行いました。新しい保育園が立派に出来上がりますように、そして、建設工事に取り組む人々に怪我がありませんようにと大地の神々をお願いする昔からの行事です。工事関係者、陽光会の理事、保育園の職員代表、そして園児も全員参加しました。子どもも参加しての献入式の後、子どもたちと大人で「チポリーノの冒険」を元気よく歌い、理事長の乾杯のかけ声にあわせて子どもたちが一斉に花吹雪をまいてお祝いしました。6月の新園舎の完成まで、いましばらく近隣の方々にはご迷惑をおかけしますが、どうかよろしくお願いたします。(社会福祉法人陽光会理事長 片山高司)



▲バザー(12/3)。庭の食堂も大にぎわい



▲板十小児童クラブの子どもたちも招いての「新年のついで」(1/6)。父母の会長・多田純也さんの獅子舞、学童の子どもたちのコマや縄とびの披露の後、餅つき大会。保育士にまじって子どもたちも餅をついて大喜び。みんなでおいしいお餅をほおばりました。

●卒園式
とき 3月21日(祝) 9時30分
場所 陽光保育園仮園舎2階ホール
◆陽光保育園父母の会と後援会学習会
おもちゃで遊ぼう
保育園がおもちゃ美術館に
とき 2月12日(日)
場所 陽光保育園(仮園舎)ホール
○講演 「子どもと遊び、おもちゃの文化論」(10時~11時)
○遊べる! 「世界の楽しいおもちゃ展」(10時~15時)
*講師の多田千尋さんは、おもちゃ美術館館長、芸術教育研究所所長、グッドトイ委員会理事長を兼任されている方。興味深いお話をうかがえそうです。お子さま連れぜひおこしください。入場無料です。
◆夏のバザー
*新園舎への引っ越し前、5月28日(日)に仮園舎で開催する予定です。ご協力よろしくお願いたします。
◆新園舎への引っ越し
*新園舎の完成にあわせ、6月24日(土)~25日(日)に引っ越しを予定しています。父母の皆様、後援会の皆様にはまたご協力のほどよろしくお願いたします。近隣の皆様には、いろいろとご迷惑をおかけいたしますが、今後ともどうかよろしくお願いたします。

●園児募集
0歳児 = 6人
1歳児 = 4人
2歳児 = 2人
3歳児 = 4人
4歳児 = 1人
5歳児 = 0人
ごあんない
お申し込みは区保育課まで。改築後、6月から定員が増えます。詳しくは当園までお問合せ下さい。

特集

ヒトが人間になるとき

その8

「遊び」と発達③ 4歳児・5歳児

幼児期の遊び活動は、学童期の学習活動につながっていきます。幼児期の子どもの心は、遊ばずにはられない。おしゃべりしたくてたまらない。淋しがりやで仲間がほしい。それだけに、仲間と要求をぶつけあえる遊び活動を求めています。そしてこの遊び心は、いかなる場合であれ、快の情動をとまらぬ自分を一杯表現する行動に満ち満ちています。ひとりの人格者として自己を表現し、なかまとの関係を律する社会性をも身につけていきます。特集「遊び」と発達」の最後は、保育園での4、5歳児の遊びの姿を紹介します。

4歳児 友だちと遊ぶのが大きな楽しみに

お友だちとおうちをつくり、テーブルにおもちゃを並べてままごと遊び。ごはんをつくって一緒に食べ、お風呂に入ると、お友だちと一緒にイメージをふくらませながら遊びます。お買い物に行ってみたり、お弁当をつくってピクニックごっこ、本を出して学校ごっこ、家族で食事に出かけて「くるくる寿司屋さん」ごっこなどなど、どんなままごとの世界が広がっていきます。その内容は、日々の生活のなかで子どもたちが経験したことがほとんどですが、よくこんなことまで覚えているなど感心することもしばしば。例えば、歯科検診のあとでは歯医者さんごっこ。患者になった子どもは寝かされて、「ちゃんと歯磨きしてくださいね」などと言われています。

5歳児 遊びを通して社会性を身につける

「かくれんぼ」「だるまさんがころんだ」「缶けり」「ドロケイ（泥棒と警察）」など、昔も今も変わることなく、時間を忘れるほど熱中できる遊びがあります。毎日飽きることなく、公園に着くと「水鬼やろー！」



上：ままごと遊びはどこでもできます。庭の砂場でままごとをする4歳児の子供たち。砂場の砂は、「ごはん」にびっぴり？ 下：毎日のように公園で走りまわっている5歳児クラスの子供たち。この日は近所の空地で「だるまさんがころんだ鬼ごっこ」

建設資金

寄付のご協力ありがとうございます。

(05年8月1日〜12月25日/敬称略、順不同)

- 一人 小早川淳子、布川順子、植野良子、豊丹生信昭、中山早苗、茂樹、高田均、高田礼子、追川繁、林万理、武井寿一、前大俊子、平山富美、福留光子、小林武二、昭子、前原芳子、大塚智治、志子、若林俊康、あかね、小沼弘、徳留人美、松本信子、黒田清子、横田和夫、須長茂雄、大島幸枝、石田秀昭、正和生、猪狩茂、ハツ、三田村克子、福山成子、志村敬一、樺武敏、桑本のり子、井出清子、福田花子、植田尚子、細川典子、田中良也、星屋正晴、星屋真理子、榎本富雄、関 恵美、星野久子、片山高司、片山純一、北原剛、北原期、大塚雄蔵、和江、又井淳子、伊藤和子、長谷川明人、藤子、伊賀七海子、三浦多佳子、松尾真理子、原田勝弘、並木美、南瑞穂子、美坂寿志、岩田英嗣、岩田克己、那須恵治、大野節夫、布施恵美子、浅野寿美子、新見俊昌、若野光廣、白石泰一、藤本隆子、神林真由、植本求、倉持豊、越部富士、津田大地、竹谷廣子、池添泰、清水卓、石巻知敏、中島菜子、神谷真佐子、米山典子、江森道、渡辺一之、弘子、山田健一、淑子、小沢弘子、流目寿子、三森康正、山本早三、まゆみ、水谷幸晴、水谷葉子、山村智、加藤可津代、桐原久美子、石原博道、石下弥生、岸本匡史、佐藤嘉一、石飛健樹、稲葉久一、竹澤美代子、島津一喜、伊東靖子、渡辺シゲキ、山下重男、益子節男、黒川喜

「鬼決めジャンケン！」「鬼気のない声か響きます。友だちと遊ぶのが楽しい日々、仲間と遊んで、そのなかで育っている子どもたちです。」「作戦タイム！」と声をあげて、輪になってヒソヒソと相談したり、鬼に捕まった仲間を友だちと助けにいったりと、遊びのなかでさまざまな場面を経験します。勝負にこだわるあまり、「タッチした」「していない」とにらみ合い、言い合う場面もあります。思いきり走って体を動かす一方で、実は頭も使って考え、感情をぶつけ合い、相手の気持ちを受けとめるなど、心も活発に活動し、遊びながらたくさんのかんことを体験しているのです。

3、4歳のころは、鬼役の大人に追いかけてもらうのが楽しく、「待て、待てー！」と保育士が追いかけると、「キヤーキヤー」と声をあげて喜んで逃げ回っていた子どもたちも、5、6歳になると自分たちで鬼役も大人なみにできるようになり、まわり込み、挟みうちにするなど、知恵を働かせます。全員を捕まえるにはどうすればいいか、鬼仲間と相談し、「攻め役」「守り役」と役割分担を考え、全力をあげてがんばります。作戦が成功して鬼が勝利したときは喜びでいっぱい。仲間と歓喜の声をあげて達成感に酔いしれます。捕まっていたほうはかなり落ち込み、しょんぼりしますが、「もう一回やろー」と、次こそはと意気をあげるのです。



保育園へ送り届けるのがお父さんの仕事

4月から次女の怜が陽光保育園のとなぼ組(3歳児)でお世話になっていきます。長女の優も2年間陽光保育園でお世話になりました。陽光保育園は私の職場に近いので、朝の送りは私の仕事です。長女の朝の送りが終了して3年間経過しました。その間私の加齢変化にもかかわらず、娘が毎日喜んで通園してくるので、私にとってそれほど苦労はありません。子育ても2人目で、慣れたこと、優のときにお世話になった先生方が多数いる分、少し余裕ができたためと思います。

私は長女に対しては少しも時間をかけ子どもと接するように努めてきましたが、仕事も忙しくなり時間的余裕がないため、次女に対しては長女の何分の一も時間を費やしていません。申し訳ない気持ちでいっぱいですが、子どもは全く気にせず元気いっぱい過ごしています。

怜はいつでもお姉さんと気持ちは対等で、次女特有の要領の良さや甘え上手を備えています。おそらく園でも十分に怜らしさを発揮していることと思います。私が時々「今日は園でどうだったの」と尋ねると、「楽しかった」と「男の子は強い」と大抵答えます。

長女のときは途中で園をやめ、幼稚園に入園させました。長女は陽光をやめたくなかったのに、お父さんとお母さんが無理矢理やめさせた、今でも言っています。長女は陽光保育園の行事に参加するたびに、「私は二七卒園児だから」と言い、「怜には卒園まで過こさせて」と言っています。怜も両親もそのつもりでおります。おそらく我が家の娘2人は、陽光保育園の自由なところが大好きなのではないかと思えます。残り2年少々となりましたが、卒園までがんばっていきたいと思います。

(3歳児クラス・怜の父 藤田之彦)

戦争への怒りから 9条の会の運動に

古屋孝夫



私の戦争体験は小学生時代でした。戦争が激しくなったころ、私たちは長野の上山田に学童集団疎開をしました。授業は、歩いて1時間以上もかかる隣村の小学校を午後から借りて短時間行い、また戦争に徴兵されて働き手のなくなった農家の稲刈りなどの勤労奉仕に動員されました。食糧難は集団疎開先でも次第に厳しくなり、夕食が細いさつまいも3本になった晩遅く、子どもたち全員が「イモ3本、腹減った」と、一斉に大学して台所へ押しかけたことがありました。もちろん成果はなかったのですが、先生も生徒の気持ちが分かっていたので、誰も怒られませんでした。これが私のデモ第1号体験でした。集団疎開先の生活状況は、シラミが蔓延するなど、ますます悪くなる一方で、私はそこから抜けて山梨の親戚に縁故疎開で移りました。ここでも出征農家支援の勤労奉仕や、不足する繊維の材料をまかなうために、養蚕に使った桑の枝の皮を剥いで供出するなど、小学校の子どもにも戦争協力の仕事が押し付けられました。東京などを空襲するB29戦闘機は、いつも富士山を目印に無抵抗で侵入し、山梨の上をきて進路を東に変えるのを悔しく見上げていましたが、4月の東京大空襲で大塚の我が家も全焼し、家族は板橋に逃げ延びました。幸い、みな無事でしたが住む所を失い、結局、いま交通公園のある場所に作られた都の被災応急対策のバラック住宅に住み着くことになり、小学6年で終戦とともに私もそこに帰りました。板を打ち付けただけのバラックなので、大雪の晩には、朝起きるとふとんの上に吹き込んだ雪が積もっていました。終戦翌年には、配給も途絶えた食糧難で、ドングリの粉をさらして、真っ黒なだんごで食いつなぐ状態でした。生活状態が悪いので、周りには軒並み結核患者がいました。当時、誰もが戦争はこりこりだと思っていましたから、戦争放棄の憲法9条は当たり前でした。それが今、戦争をする国にできるよう9条改悪が企てられていることは許せない。そのために少しでも働きたいと、大谷口9条の会に参加しています。(大山西町在住/大谷口9条の会会員)